



ごあいさつ

島根県健康福祉部青少年家庭課
子ども・子育て支援室長 河原 賢

皆様方におかれましては、平素から、島根県の子ども・子育て支援施策に格別の御理解と御支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、「子ども・子育て支援新制度」が始まり、もう少しで1年になります。大幅な制度変更であり、国から詳細な通知、要綱等が示されず、県や市町村等の行政現場はかなり混乱しましたが、それ以上に現場の皆様は、さぞかし大変であったと思います。落ち着きつつあるとは思いますが、まだまだ課題、不明な点等が多いと思いますので、引き続き、国に対し、制度の充実、改善、迅速な情報提供を求めてまいります。

一方、この制度については、課題等はあるものの、制度の「量の拡大」と「質の充実」に向け、予算面での増額や、待機児童の解消、事業の拡充などは、徐々に進みつつあり、平成27年度補正予算、平成28年度予算においても、保育所整備の推進、保育士確保対策の拡充、チーム保育推進加算の創設、年収360万円未満の世帯の第2子保育料の半額・第3子保育料の無償化などが、要求されています。

国においては、「子育て支援」を特に重要

な政策のひとつとして位置づけており、今後さらなる充実が望まれているところです。

また、県においては、昨年、今後5カ年の目標や施策の基本的方向を示した島根県総合戦略を策定しました。その中では、「子育てしやすく、活力ある地方の先進県しまね」を目指し、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる社会づくり」を基本目標のひとつとして掲げ、結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援を行うこととしています。具体的には、今後、市町村や民間の皆様と連携しながら、待機児童の解消、病児保育の拡大、保育士の確保、一定所得以下の世帯の3歳未満児の第1子・第2子保育料の軽減等、様々な取り組みを進めていく予定です。

「子育てしやすい島根」をつくるためには、保育士を始め保育関係者の皆様の力が不可欠です。島根で生まれた若者が、「島根で暮らしたい、結婚したい、子どもを育てたい」と思ってもらえるように、皆様ととともに取り組みを進めていきたいと考えていますので、引き続き、御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げます。



保育の質向上に向けての取り組み



雲南保育研究会

実技研修「WARAJリズム運動あそび」



22の保育所・園で構成される雲南保育研究会の組織では、毎年、各歳児別・療育・保健の「保育を語る会」や、実践実技や講演を通して学ぶ「保育実技研修」を行っています。

この保育を語る会は、保育・支援・看護のそれぞれの立場から、日頃の保育実践の中での悩みなどを語り合う会です。各専門職のメンバーが集まり、お互いに悩みを語ったり、情報交換をすることは、多様な職員間の中で話す経験や、お互いのコミュニケーション力も高めることにもなり、とても貴重な会となっています。

日頃、保育や子どものことを語る・自分の思いを語ることで、自分の保育感を高め、保育の質の向上や、保育の専門性を高めることにつながっていると思います。研究会や自園などの組織における保育者や専門職の役割も明確になり、保育を高める取り組みへと発展していくことが期待されます。

また、年に2回行っている保育実技研修は、主に講師の先生より実技指導や講演を受け、捉えたことや気づき・学びから保育者が主体的に保育に取り入れたり、見直しをして保育実践に活かしながら、各園において更に保育の質の向上をめざして取り組んでいます。

今後も主体的・計画的に保育を高める取り組みを行っていききたいと思います。

出雲市保育協議会 保育士部会



出雲市保育協議会保育士部会では、「地域に根ざした子育て支援の在り方を探る」をテーマに研修・「こんにちは保育園です」・研究の三つの柱で活動を行っています。

研修では、講師をお招きしてお話を聞いたり、グループ討議で意見交換を行ったりすることで新たな気づきがあったり自分の保育を振り返る良い機会になったりしてします。研修の内容も、保育士向け・主任保育士向けとそれぞれの立場での研修を行っています。保育士向けとしては体験研修・保健研修・講演会など実践に基づいた研修を行っており、また主任保育士向けとしては主任としての役割やメンタル面の研修も行っています。

「こんにちは保育園です」は出雲市保育協議会全体で行っている地域に根ざした子育て支援事業で、所長会・保育士部会・調理担当者部会が協力して市内の公共施設やコミセンなどを会場に在宅の親子を対象に遊びのコーナーや食事のコーナーなどを通し、いろいろな情報を提供しています。

研究では研究発表について学び、意識を高め、主任保育士として資質向上に努めるとともに、平成28年度の発表に向けて8園の職員が集まり、「心豊かな子どもの育ちを願って」と題し実践を重ね学びあい、研究を進めています。このような研修で得た知識を各園に持ち帰り、園内研修等でさらに深め、共に学びあっています。

益田市保育研究会



益田市保育研究会では、①保育の質を更に向上させ、保育所が将来の益田市を支える人材を育てる基盤となること ②私たち保育所が、益田市の子育て環境を充実させ、子育てがしたくなる地域づくりを行うことの2つを目指し、様々な事業に取り組んでいます。

専門部会	主任部会	療育支援部会	保育所長部会	保健部会
・保育実践の向上 ・保育者の資質向上 ・保育者の健康づくり	・保育実践の向上 ・保育者の資質向上 ・保育者の健康づくり	・療育実践の向上 ・療育者の資質向上 ・療育者の健康づくり	・保育実践の向上 ・保育者の資質向上 ・保育者の健康づくり	・保健実践の向上 ・保健者の資質向上 ・保健者の健康づくり
特別支援部会	子育て支援部会	保育所長部会	保健部会	その他
・特別支援実践の向上 ・特別支援者の資質向上 ・特別支援者の健康づくり	・子育て実践の向上 ・子育て者の資質向上 ・子育て者の健康づくり	・保育実践の向上 ・保育者の資質向上 ・保育者の健康づくり	・保健実践の向上 ・保健者の資質向上 ・保健者の健康づくり	・その他

左の図は、平成27年度の益田市保育研究会の事業計画です。研究会内に様々な部会、委員会を作り、相互に学び合いながら活動を行っています。各部会や委員会には、全園の所(園)長、主任保育士が分かれて所属し、事業を進めています。必要に応じて、様々な機関と積極的につながり、連携を深めながら活動を実施しています。

いよいよ今年度から子ども・子育て支援新制度がスタートしました。この新しい制度では、質の高い教育・保育を安定的に供給していくために、保育者の人材確保および資質向上を図り、長く働くことのできる職場構築の必要性が謳われています。そこで今回は県内各支部で取り組んでおられる「保育の質向上に向けての取り組み」についてご紹介いたします。

松江市保育研究会



市内に71ある認可保育所のうち53所・園で組織している松江保育研究会では、保育の質の向上をめざす取り組みのひとつとして、ずっと以前(確実に35年以上前)から公開保育や研究発表を軸に学びを深めていく取り組み(=松江市保育研究大会)を行っています。これは市町村合併により現在の松江市保育研究会の組織になってからもずっと継続している取り組みで今年度が第九回目となりました。

『育もう子どもの心を、育てよう生きる力を!』のキャッチフレーズのもと、今年度は11所・園での公開保育と二つの特別分科会(初任者研修会・リスクマネジメント研修会)を設け、会員はそれぞれが希望するテーマの分科会に参加し、学びを深めました。土曜日に開催するため自園での保育も行いながらの開催となりますが、保護者の皆様のご理解とご協力をいただき、参加可能な職員が参加し学びあっています。講義形式の研修会とは違い、保育だけでなくその園の環境(自然環境、物理的環境、物的環境、人的環境...)なども併せ見ながらの研修は、自分の所・園自分のクラスの保育と重ね合わせて考えたり、見聞きしたことを即現場に生かしていける強みがあり、とても貴重な機会であると思います。他方たくさんの方の人数の中での公開保育は、当日までの苦しく、辛い過程を乗り越え終えた時の達成感と充実感、そして職員一丸となって取り組んだことによるチームワークは何物にも代え難いものになっていると思います。

今後も個々の所・園だけではできない組織的な活動を通してお互いに啓蒙・啓発しあい、地域社会の信頼と期待に応えることのできる所・園づくりをめざしていききたいと思います。

浜田市保育連盟



浜田市保育連盟では、乳幼児救命講習・絵画講習・実技講習(リトミック・接遇等)を年に各1~2回行っています。今年度からは、新たな試みとして2ヶ年計画で年齢別担当者向けの研修を実施しています。

研修を行うに当たり、各園担当者に希望する研修内容等についてアンケートを実施し、計画を進めました。第1回目は、0歳児担当者研修を行い市の健診担当保健師及び管理栄養士を講師に迎え、乳幼児の発達の状況・乳児健診時のチェック項目や保護者に対するアドバイスの内容、離乳食で家庭と園との食事内容に違いがある場合の対処法・離乳食の進め方についてなど具体的に指導していただきました。

事前に質問・疑問を講師先生に伝えた事により内容が充実したものとなりました。また、保育士とは違う立場からの見解や、思い等を聞く機会を持てた事は貴重な経験でした。

今後も保育の質を高めるための研修を計画していききたいと思います。

かのあし保育協議会



かのあし保育協議会は島根県西部、広島県と山口県の境にある、歴史ある津和野町と自然に囲まれた吉賀町にある保育士の集まりです。30年以上前より発足している伝統ある組織です。

鹿足郡内の所属会員園は12園、全体児童数は約320、会員保育士は、約70名です。年に2回全体で研修会を開催して、県内外より講師を迎え資質向上に努めています。さらにかのあし保育協議会の定例研修会として「公開保育」を行っています。担当の園を毎年1園決定して、その園で公開保育を実施します。会員同士で保育の見直しや、意見交換をしながらスキルアップに努めています。なかなか自分達だけでは気がつかないことを他園の保育士から見た場合の指摘や指導はとても貴重な物になっています。今年度はかきのき保育所での『いのちをいただく』というテーマの保育実践と講師の先生の話や質疑応答を行いました。担当になる園は負担もあるかと思いますが、みんな自分の勉強のためと思ってがんばっています。

数年前より児童数も減ってきていますが、都会からの1ターン家族も増えてきていますのでとても嬉しいです。かのあしの元気な子ども達を笑顔で保育する喜びをかみしめて、会員一人ひとりががんばっている毎日です。



保育の質向上に向けての取り組み



大田市 保育研究会



大田市保育研究会では、平成22年度より、大田市少子化対策関連事業の一環として、年1回「子育て応援フェスティバル」を開催しています。このフェスティバルは大田市保育所職員が、その専門性を活かし、乳幼児を持つ保護者に育児の楽しさを伝えたり、男女が協力し合って育児に参加できるように支援することを目的としています。

昨年度は12月14日（日）サンレディー大田を会場に行いました。当日は「親子でおもちゃ作り」「親子で楽しめるゲームコーナー」「保育士によるマーチング、劇」「小さいお友だち（乳児）集まれコーナー」「簡単朝ごはん試食コーナー」等、盛りだくさんの内容で行われ、たくさん子どもたち、家族連れで大盛況。親子で遊びを楽しむ場として大変喜んでいただきました。

また職員の感想として、「各園アイデアを出し合って良い刺激になった」「大田市の保育園が一同に会し、協力して作り上げる良いイベントになった」など聞かれ、このフェスティバルが私たち職員にとっても保育の資質を高め合う良い学びの場となっていることを実感しました。

今年度は内容を変え12月13日（日）同じくサンレディー大田にて子育て中の保護者や保育園職員を対象に講演会を開きました。今後もこの「子育て応援フェスティバル」を保護者や子供たち、そして私たち職員にとって、より実り多いものに行きたいと思います。

邑智郡 保育研究会



邑智郡では、数年前までは、いくつかの保育所が交代で公開保育を行っていたが、公開保育をとおして、他の保育所の保育を見るだけでなく、公開することによって、自分たちの保育を見つめなおし、保育所内での語り合いの時間を設け、いろいろな視野で考えたり、学んだりすることができているということや公開保育に向けての資料を作ることで書くこと、記録をとること、ふり返ることができるということで、現在は全保育所が毎年行うようにしている。

また、邑智郡保育研究会として一緒に研修を行ったり、公開保育という場で意見交換なども行っているが、町村合併前には6つの町村に分かれていたこともあって、子どもたちにとってよりよい保育を求めることには変わりはないが、それぞれが少しずつ違う形で保育を行ってきているところもあるので、いろいろな保育に接することで、視野を広げ、そこからまた新たな取り組みに挑戦できるのではないかと考えている。

日々の保育、生活に追われ、職場内でもなかなかゆっくりと保育を語り合える時間が持てないのが現状ではあるが、いろいろな保育を見たり、知ったりする中から、自分を見つめなおし、他者と語り合うことでいろいろな考えにふれ、そこからまた保育士として成長できればと思う。先日、の県大会で、「研究心を常にもとう」記録は大切である」という事からも、今後も有意義に続けていきたい。

江津市 さくら保育園



私の園では、毎月の誕生会や運動会・発表会・子どもの一年間の成長を保護者に伝える成長展など年間の行事を担当制で行っています。それぞれの担当が1年を見通して4月から取り組み、年度のテーマ（例えば今年度は『伝統』で、伝統を感じられるよう各行事も工夫しています）に関連した活動や、子ども達の興味・関心に目を向けて内容を考え、職員に提案したり意見を求めたりします。年度が変われば担当する行事も、一緒に組む相手も変わります。経験年数が増えていくと、無駄をなくすことやスムーズに進めることが上手になり、若手の発想や動きに「もっとこうすれば…」なんて思うこともあります。経験者のやり方ももちろん大切ですが、若手の発想は固定概念にしばられずとも新鮮で、子ども達にもいい刺激になっていると感じています。若手、中堅、ベテランなど視点や考えの違う職員が集まって意見を出し合い、話し合いをすることで新たな気づきも生まれ、お互いを高めあう機会となっており、職員が互いの多様性を受け入れることが、子どもの多様性を受け入れることにもつながっています。

また、4月から話し合いをすることで日々の保育と行事に連続性が生まれ、子ども達の日常がより豊かになります。そして各担当から保育の考え方や取り組みの様子を発信することで保護者にも理解を深めてもらい、一緒に子どもの育ちを見守っていききたいと思っています。

人材育成プロジェクトの活動報告と今後の課題

人材育成プロジェクトでは8月に「人材育成ミーティング～保育者の交流広場～」、10月には島根県保育研究大会において「人材育成分科会」を開催し、多くの方に参加していただきました。ありがとうございます。詳細については「てつなぎ No.74」や「保育協議会だより No.53」に掲載されていますのでここでは省略させていただきますが、保育者の悩みや課題、リーダー的役割を担っている方の悩みや課題が再確認でき、そのことについて共に考える仲間がいることを確認できる場になったのではないかと考えています。

各市郡から1名ずつ参加してもらい運営していく形になって2年目となる人材育成プロジェクトですが、島根県保育協議会の中に人材育成について考える会が正式にできたのは6年前のことです。当初は「今後の島根県保育協議会を担っていく人材を育成する」ことを目的として動き出したのですが、話し合いを重ねる中で、やはり保育者が保育にやりがいを感じられること、生き生きと保育に取り組めることを一番の目的にしようということになりました。そのことが結果的に島根県保育協議会を盛り上げていくことにつながると考えたからです。その後は試行錯誤しながら様々な場を作ってきたわけですが、まだまだ十分ではありません。今は「人材育成ミーティング～保育者の交流広場～」と「人材育成分科会」がこのプロジェクトの主な取り組みとなりつつありますが、それも含めて取り組みを見直す時期に来ているのかもしれないと感じています。

やはり一番に考えたいのは「保育に対するやりがい」です。生き生きと保育をするためには、処遇改善などの施策ももちろん大事ですし、書類などに追われてしまう環境なんかも改善していく必要があると思います。でも、これからの社会にとって保育が重要な役割を担っていることを保育者が感じ、それによって保育に対してやりがいを感じる事が基盤になればいけないと思っています。県大会の記念講演で藤森平司先生は『社会に出たときに社会の一員として、社会に貢献していく人材を作っていくことが今の時代の保育の役割です。』と話されました。その言葉を「島根の一員として、島根に貢献していく人材を作っていくことが今の島根の保育の役割」と読み替えてみると、島根の課題、そこから出てくる島根の保育の課題を考えることに力を注がなければと思えてきます。県内の保育者がつながり、共に島根の保育の役割を考える機会を設けることができれば、それがぐるっと回って保育に対するやりがいを見出すことにつながっていくんじゃないか。そんなことも人材育成プロジェクトの今後の課題にしていきたいと思っています。

人材育成プロジェクトリーダー

相山 慈（江津市 あさり保育園園長）



【ガタンゴーン!!】

子どものつばき

子どもたちと散歩に行きどんぐりを拾っていた際のこと

T君が「どんぐりいっぱいある。どんぐりどこから来たの?」と。「この木がどんぐりの木だから、ほらこんな風になってたんだよ。」と、どんぐりのなっている枝を見せました。そして「木からコロコロって落ちてきたんだよ。」というと、「ふーん。池ないよ。」と言。

子どものつばき

1歳6ヶ月A君は、アンパンマンが大好き。同じクラスのB君が着ているアンパンマンの服が気になって仕方が無い様子。「見せて」という思いで側に行くのですが、B君には伝わらず逃げてしまいます。そんなB君を「アンパンマン〜!!」と追いかけて行き、まるで追いかっこをしているみたいな2人です。



子どものつばき

年長児

夏野菜もそろそろ終りの頃、トマトを見て「あっ、トマトがおばあちゃんみたいになってるよ」「しわしわになっとるー(笑)」



【おーい! くもさあ〜ん!!】



子どものつばき

【お芋の葉っぱだよ!】

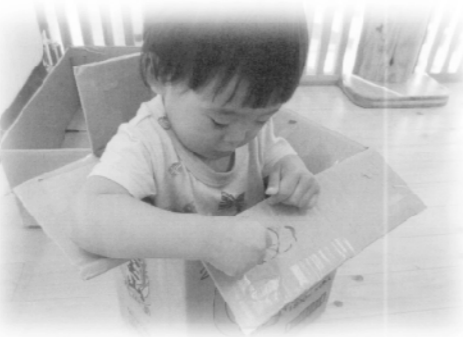
3・4歳児クラスのエピソード(室内)

〜外で陽が射しているのに大雨が降ってきて、それを窓の側で見ていた子ども達が踊り出し〜「おひさま 勝って〜! あめ、負けろ〜」「フレ!フレ! おひさま!フレ!フレ! おひさま!」その直後、今度は突然たくさんの大粒のあられが…。「きゃー、雪だー、たいへーん」と大騒ぎ〜でも…外が一面白くなったのを見て〜「わー、やったー! 先生ーさいこうの日になったー」と、満面の笑みになりました。

子どものつばき

落ち葉が風で転がるのを見て

「先生! 葉っぱが待って待ってーっしててね!!」



【お絵描きも箱も大好き!!】

保育士のつばき

誕生会の出し物で保育者が透明な水がオレンジジュースに
なるマジックをした夜のこと…

Sちゃん「これ内緒の話だけどね、M先生は本当は魔法使いだと思ふよ。」

とお母さんに話していたそうです。

目をキラキラさせて話す S ちゃんの姿を想像してこちらまで嬉しくなりました。

子どものつばき

1歳児

うんちが出てシャワーしているAくん、担任が「泡つけておしりあらうよ」と声をかけると、口に手をあてて「あわわ…」と言っていた。「泡」を「あわわ」と思ったAくんのかわいらしい発想でした。



【大きいバツタ見つけた】

子どものつばき

4歳児

公園でどんぐりを探している時

帽子をかぶっていないどんぐりを見つけ、

A「帽子がないなあ〜」

友達が落ちている帽子を見つけて一緒にかぶせ、

B「よく似合っちゃーわ」

A「ほんとかだ〜びつたりだわあ」と言って

盛り上がっていました。

保育士のつばき

2歳児のUちゃんとMくんはとっても仲良し。

Mくんが離れると、Uちゃんが追いかけていくほどのLOVE×2その姿を見て

「あーあ、私もそんな恋がしたいなあ」とつばやく保育士です。

HOT

みんなの声を聞いて! 聞いて!

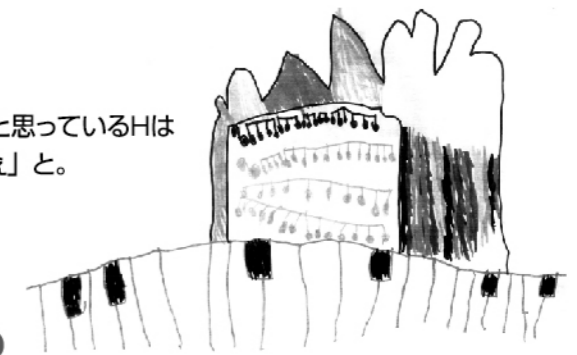
ホッと



(5歳児)

連絡ノートより

昨夜、半月を見て月=まるいと思っているHは「お月様がピリピリしちよーねえ」と。発想が面白いです。



(4歳 女児)

子どものつばき

バトカーを見せて頂いた時

おまわりさん「運転席や助手席にも乗っていいよ」

A 男子「ほく助手席に乗ろっ」と!

B 男子「だめだよ、そこは女子席だから男子はだめだよ」…かんちがいに、みんな大笑い。

子どものつばき

運動会の練習で

「みんなはトラックのところを走るんよ」

「先生トラックどこまっとる??」

トラックちがいでした。

連絡ノートより

トマトの水やりを体験した日の夜、お風呂にて…ジョーロでお湯を私(母)にかけ、「大きくなーれ!」と。これ以上、大きくなったら困るのですが…(笑)

子どものつばき

飼育しているバツタを観察していた時

環境の変化で体の色が茶色になったバツタをみつけて…

Aくん「せんせー、バツタがちゃいろになってる」

保「ほんとうだ、どうしてだろうね」

Aくん「おとしよりになったけんじゃない?」